

實現に邁進せんとするものである。我等は労働總同盟に對し深く感謝の意を表すると共に、將來の友誼を希望する。

昭和七年四月十六日

逓友同志會

議事を終つて赤松會長より「我が逓友同志會は愈々本日から單獨組合として進む事になつたのである、此の意義ある擴大評議委員會を閉づるに當つて、同志諸君と共に大なる決意を以て、今後我等の前進する途上に起るであらう苦難を突破し、我等に課せられたる歴史的使命を遂行したい」と決意を披瀝され同志を激勵して閉會の辭を終り記念挨拶をなし、逓友同志會の萬歳を三唱して散會した、十時四十五分

執行委員會が組織變更に關する提案をなすに至つた経路

前項當主事の提案説明にもある如く、單獨組合として其の獨自性を發揮し行かんとする希望は逓友全線の根強い希望であつた。而して全組合員は慎重なる態度と撻まざる努力とを以て諸條件の熟する機会を待つて居た。斯くして本會の組織も全國的に擴大し、其の運動の規模又發展し來り、必然的に總同盟の諸機關と重複する組合を生ずるに至つた。即ち地方的組合を基礎とする總同盟の組織との間に生ずる矛盾である。又一方内外の諸勢は急激なる變化を遂げつゝ一般社會運動に對してもその劃一的なる國際主義の修正變改を促すに至つた。赤松會長の主張する國家社會主義は國內諸方面に多大なる影響を與へつゝ異常なる發展をなすに至つて、本會も又此處に其態度を明確にして、其の歴史的使命に邁進すべしとなす意向多きを加へるに至つた。

本會執行委員會は斯る動向を正しく認識しつゝ組合員大衆が熱望し來つた。本會獨立の好機會たるを確信し、四月十一日の執行委員會に於て、本評議委員會を開催し組合員大衆の討議に諮る事となつたのである。

支那より提出された意見書

意見書

我逓友同志會は創立當時より官業の獨自性に立脚して一般民間の労働組合と著しく其の運動方法を異にするは自他共に認むる所である我等は創立當時より日本労働運動の主流たる日本労働總同盟に加盟し其の指導の下に今日の確固たる陣營を築くに至つた而して今日の社會狀勢を以てするに我等は我等の先輩日本海員組合が海運労働者の獨自性を尊重する

爲め獨立したる先例に倣ひ我等逓信従業員が其の國家の一大動脈たる獨自性及び其の官業としての獨自性を極めて明確に内外に聲明する爲め獨立することが絶対に必要と信する而して次に其の時機の問題であるが以上の意見は既に數年前より全逓友同志會の輿論である依て現時の社會狀勢を視る時其の斷行の時は正に今日にある事を我等は固く信するものである本部執行委員會は即刻果斷の所置に依て本支部の執行に應ぜられん事を切望す。

昭和七年四月十一日

逓友同志會 品川支部幹事會印

逓友同志會執行委員會御中

意見書

吾等は内外の狀勢に鑑みて逓友同志會の職權擴大化のため多年の宿望たる單獨組合として逓信従業員解放運動に邁進すべき絶好時機に有るものと信す本部執行部に於ても單獨組合として一踏邁進あらん事を切望す

昭和七年四月十一日

逓友同志會 大森支部印

逓友同志會 本部御中

逓友同志會の組織變更に關する意見書

吾等は日本資本主義の必然的行詰の結果、國民大衆の生活が極度に窮乏化してゐることを確認し、無産階級解放運動の先尖に立つ組織労働者の責任ある立場から必然的に逓友同志會の組織を變更し、政治的、經濟的、新運動方針を樹立し、以て一日も早く無産階級解放の實現を圖らねばならぬ、經濟闘争の分野に於ける逓友同志會の組織變更は、日本労働總同盟より分離することである、同盟の構成組合は、民間中、少企業の雜種産業労働者が大部分を占めてゐる、従つて勞資の抗争が激烈なれば、勞資共倒れの悲運に陥ることは明らかである、然し乍ら勞資の抗争が極はまつた時必ずしも資本主義の打倒なし、労働者の解放が伴はないのだ、故に同盟の運動方針は産業平和主義であり、勞資協調主義を一步も出ることが出来ないのだ、彼の團體協約の如きも實に同盟に於ては堅實なる戦術の一つとして採られるゆゑである、然るに吾々逓信労働者の經濟闘争は漸次、部内官僚主義を克服して今殘されたる問題の悉くは、事業の國家豫算關係の改